

4 専門委員長対談

近年、公認会計士の活躍の場は、監査法人のみではなく上場企業・上場準備企業を含む一般の事業会社に広がってきております。また、官公庁等に勤める公認会計士も非常に増えており、社会から公認会計士に対して大きな期待が寄せられていると言えます。

日本公認会計士協会 組織内会計士協議会では「組織内会計士ネットワーク」を開設しており、同ネットワーク会員向けに様々な施策を行っています。

本日は、この組織内会計士協議会に設置されている専門委員会である、「研修企画専門委員会」、「ネットワーク構築専門委員会」、「地域サポート専門委員会」、「広報専門委員会」の専門委員長及び組織内会計士協議会議長にお集まりいただき、組織内会計士の魅力、組織内会計士協議会の活動内容、組織内会計士の今後の展望等について対談を実施いたしました。

この対談の様態を本項において報告いたします。



組織内会計士協議会議長

清水 敬輔 氏

研修企画専門委員会専門委員長

脇 一郎 氏

ネットワーク構築専門委員会専門委員長

澤田 正憲 氏

地域サポート専門委員会専門委員長

吉田 徹 氏

広報専門委員会専門委員長

阿久津 聖 氏

広報専門委員会副専門委員長

青野 奈々子 氏

青野 それでは、対談を始めて参りたいと思います。本日は、初めての4専門委員長対談ということもありまして、ぜひとも忌憚のないご意見いただければと思います。

1. 組織内会計士の現状と 各専門委員会の取組みについて

青野 それでは、最初のテーマに入りたいと思います。最初のテーマは、『組織内会計士の現状と各専門委員会の取組みについて』です。

まず、清水さんから組織内会計士の現状、企業内での立場等についてご説明をお願いします。

清水 企業などに勤務する公認会計士を「組織内会計士」と呼びますが、日本公認会計士協会の組織内会計士ネットワークには、現在、正会員として約 1,300 人に登録いただいています。監査法人や会計事務所から企業等に転職された方、公認会計士試験に合格して監査法人などを經由せずに企業等を就職先として選択された方、元々会社の中にながら公認会計士の資格を取得された方など職歴は様々です。



各企業での活躍の場も多岐にわたり、経理、財務はもちろん、経営企画、内部統制、IRなど広い分野で活躍をされています。また、官公庁や、大学などの教育機関で力を発揮している方々も少なくありません。

日本公認会計士協会では、平成24年に組織内会計士協議会を設置し、組織内会計士の資質の維持や

向上に貢献し、公認会計士の活動領域を拡大するための活動に取り組んできました。

青野 清水さん、ありがとうございます。それでは、次に各専門委員長に自己紹介いただくとともに、各専門委員会の取組みについてお話しいただきたいと思います。

脇 研修企画専門委員会専門委員長を務めている脇です。私は、1992年に公認会計士二次試験に合格し、大手の監査法人の国際部に入所しました。その後、三次試験に合格後、すぐにヨーロッパ系外資系企業の日本法人にコントローラーとして転職をし、その時に組織内会計士となりました。

その後、約5年程度コントローラーの仕事をヨーロッパ系の会社で従事した後、アメリカ系の会社で約2年程度、ビジネスアナリスト、つまり事業部経理責任者として従事しました。その後、外資系IT企業の日本法人社長に就任し、主に経営全般及び営業に従事、その約5年後に他の公認会計士と共同で、現在の会計・税務コンサルティング会社を立ち上げて約10年が経過しています。

脇 公認会計士協会では会員向けにCPE研修会を実施していますが、従前では監査法人に勤務されている方や独立開業されている方を対象にした研修が非常に多く、組織内会計士にマッチしたものではありませんでした。このような課題を考慮し、研修企画専門委員会では組織内会計士向けの研修会を企画しています。

研修企画専門委員会では、実務的な研修となること、そして、財務・会計に偏らないようにすることを心がけています。

組織内会計士には、財務や会計以外の分野におけるスキルも求められており、例えば、税務、法務、金融、ヒューマンスキルといった多岐にわたる能力を身に付けていく必要があります。そのため、実務的かつ幅広い研

修会を実施しているわけです。

また、我々がこだわっているのは、講師の質です。講師として実績を有している方で、魅力的な講義をしていただけるような方を講師としてできるだけ呼ぶようにしています。



研修企画専門委員会では、組織内会計士協議会、組織内会計士ネットワーク会員に付加価値を与えることができる研修会を実施していこうと考えています。

青野 ありがとうございます。研修企画専門委員会では大変面白いセミナーを多数行っておられますが、その影には、しっかりとした目標や考え方があったということが良くわかりました。

阿久津 広報専門委員会専門委員長を務めている阿久津です。私は、1993年に公認会計士二次試験に合格しましたが、当時ちょうどバブルがはじけた後で、監査法人が就職人数を絞っていたという事情もあり、一般事業会社への就職活動を行っていました。その結果、当時上場しておりましたソニー・ミュージックエンタテインメントに入社しました。つまり、私は、監査法人での勤務経験はなく、事業会社でキャリアを積んできました。その後、ソニー・コンピューターエンタテインメント(現ソニー・インタラクティブエンタテインメント)に出向し、現在は、ソニー・ミュージックアクシスに在籍しています。

この会社は、ソニーミュージックグループ 20 社ほどに

向けてのシェアードサービスを行っています。

阿久津 広報専門委員会では、文字どおり組織内会計士に関する外部・内部両方の広報活動を行っています。まず、内部の広報、つまり、組織内会計士ネットワーク会員に対する広報として、会員向けのメールマガジンを配布しています。

メールマガジンでは、イベントのお知らせやセミナーの報告等のほか、最近では、専門委員会の委員紹介を週2回配信しています。

また、外部向けの広報としては、組織内会計士ウェブサイトへ、組織内会計士の活躍事例をアップロードしたり、組織内会計士ネットワーク入会の案内を作成する等、組織内会計士の魅力を外部に伝えるためのコンテンツを作成しています。

広報専門委員会で活動が続ける中で、もっとも苦労しているのがコンテンツの確保です。広報専門委員会では引き続き、コンテンツの確保に注力していく予定です。広報専門委員会で活動が続ける中で、もっとも苦労しているのがコンテンツの確保です。広報専門委員会では引き続き、コンテンツの確保に注力していく予定です。



澤田 ネットワーク構築専門委員会の専門委員長を務めている澤田です。私は、1992年に公認会計士二次試験に合格した後、太田昭和監査法人(現：新日本有限責任監査法人)に入社しました。在籍中は、国内企

業の会計監査の仕事に従事し、会計監査の仕事に加えて、IPO 準備の仕事も比較的多く手がけておりました。

IPO 準備の仕事は、クライアントの上場のコンサルティングが主な業務になりますが、その業務を遂行する中で、いつか自分の会社を上場してみたいと考えていました。少しずつその夢が大きくなり、熟慮を重ねた末、2000 年にシプレクス・テクノロジーという金融系の IT ベンチャーに転職しました。

当時のシプレクス・テクノロジーは、社員 40 人ぐらいの会社で IPO に向けての準備を行っており、私は IPO 準備の責任者として入社しました。2002 年にジャスダックに上場しまして、その後、東証 2 部、東証 1 部と順調に成長をしました。私自身も、そのまま会社に在籍しまして、上場企業の CFO として 13 年間キャリアを積みました。最終的には、2013 年にシプレクス・テクノロジーは、MBO を選択しまして、上場廃止をするということになりましたので、そのタイミングで、私は会社を退職しました。同社在職中に、企業規模は 10 倍以上に拡大しており、急成長企業で 13 年間 CFO として従事できたことは大きな財産となっています。

そして、2014 年からは、株式会社サンウッドというジャスダックに上場している新築マンションデベロッパーに転職し、現在は取締役管理本部長として現在に至っています。



澤田 ネットワーク構築専門委員会は、組織内会計士

同士の交流を深めることを目的に、講演会や交流会を企画運営しています。

具体的には、組織内会計士の活躍事例を皆さんにお伝えするための、パネルディスカッションの開催。大人の社会化見学と呼んでいる「他社のオフィスツアー」の開催。あとはいわゆるネットワーキング関係のイベントである新年会やバーベキュー、ゴルフコンペ等を企画開催しています。

さまざまな企画を通じて、話の合う仲間づくりをお手伝いすることを目標としており、組織内会計士同士、同じ志を持った仲間だと思いますので、この仲間同士の交流を深め、本当に強い仲間を作っていくことであると考えています。

青野 ありがとうございます。組織内会計士協議会の魅力の一つがこのネットワーク構築専門委員会の活動であると感じました。澤田さんのお人柄のおかげで、よりネットワークの構築が進んでいるのだと思います。



では、最後に吉田さんよろしくお願いします。

吉田 地域サポート専門委員会専門委員長を務めている吉田です。現在、株式会社日本総合研究所で経営コンサルタントという肩書で仕事をしております。私は、公認会計士二次試験に 1994 年に合格しました。その当時は、監査法人への就職が厳しかったこともあり、一般企業への就職活動を行い、たまたま縁あって、某信

託銀行に就職しました。そこで、約 5 年間勤務しましたが、最初の3年間は会計とは関係ない、預金集めや融資などの業務を行っていました。異動で、銀行の経理部門に異動して、決算の仕事をやった後、転職を決意し、監査法人に移りました。

監査法人で5年程度勤務し、会計監査を経験した後、某メーカーに転職し内部監査の仕事をしておりました。その後、日本総合研究所に約9年勤めています。



吉田 地域サポート専門委員会は、首都圏以外の地域に在住している組織内会計士の皆さんをサポートすることを目的に活動を行っています。サポートとは、例えば、ネットワーク化を促進することや組織内会計士同士のコミュニケーションの機会を作ることなどです。

組織内会計士ネットワークには、約 1,300 名が加入していますが、そのうち、東京会に所属している方が全体の 60%程度、また、神奈川県会、埼玉会、千葉会所属の方が 20%程度となっており首都圏だけでネットワーク会員全体の約 80%を占めているという状況です。残りの 20%が地域サポート専門委員会の施策のターゲットとなるわけですが、近畿会、京滋会、兵庫会といういわゆる近畿三会で 15%を占めており、東海会で 3.5%を占めているので、首都圏、近畿圏、名古屋圏で 95%を占めているというのが現状です。

残りの 5%のエリアは、組織内会計士の活動があまり活発ではないため、研修企画専門委員会が実施してい

る研修会を収録した DVD をご紹介したり、広報専門委員会の作成する媒体に地域の方に出していただく、あるいは、ネットワーク構築専門委員会のイベントをご紹介していくというような形で、いわゆる他の専門委員会との橋渡しをするということも大きな役割であると考えています。